

部 長	伊 藤 純 子
研究主任	井 手 知 里
部 員 数	3 0 名

1 研究主題

図書資料とタブレットの併用

～それぞれの利点を生かして～

2 はじめに

本研究会では、これまで、図書室を「読書センター」としての機能だけではなく、「学習センター」や「情報センター」としても活用していくために、授業の中で図書室や図書資料をどのように利用していくかに焦点を当てた研究を進めてきた。子どもたちの本離れがますます懸念される中、令和2年度秋には、市内全児童生徒に一人一台のタブレット端末が貸与され、様々な授業で活用が始まった。そこで、図書資料とICT機器のそれぞれの良さを生かした授業が展開できないかと考え、本研究に取り組んだ。

3 研究経過

全体会と学年別部会の2部構成で会をもち、研究を進めた。学年別の部会は基本的に部員の担当学年で分け、小学校で3つの部会、中学校で1つの部会の合計4部会を設定した。

- 5月 研究組織・研究テーマ・研究計画・実践報告時期や内容の決定
- 6月 県大会発表の準備（小委員会）
- 7月 県大会発表の準備
- 10月 村瀬真奈美先生による研修会
- 12月 授業実践報告会
- 1月 小牧市中央図書館の見学会
- 2月 今年度の研究のまとめ

4 研究の概要

（1）全体会

図書室の運営など、各校共通の話題を取り上げて情報交換を行うとともに、県大会での発表（中学校：学習・情報センターの部）に向けての準備を進めた。

10月には、村瀬真奈美先生に読み聞かせや選書についての講演をしていただき、子どもたちと本をつなぐきっかけづくりの方法や、本の魅力を伝える手段を学んだ。また、令和4年1月には、昨年の春に開館した小牧市中央図書館の見学会を実施した。職員の方から説明を受けながら館内を見学する

ことにより、施設の魅力を肌で感じることができた。

これらの貴重な経験を、各校における今後の読書活動の推進に生かしていただけるようにしたい。

(2) 学年別部会

図書資料とＩＣＴ機器を利用した授業実践報告会を、部会ごとに行った。情報交換を行うことで、授業の中や委員会活動等での活用方法について、多くの発見や気づきがあり、今後の実践の幅や可能性が広がった。活用に関して新たな課題もみえてきたが、各校での取組を参考にしながら、図書室や図書資料、ＩＣＴ機器を活動の中にうまく取り入れ、より充実した実践ができるようにしていきたい。



活動の様子

5 今後の課題

図書資料とＩＣＴ機器にはそれぞれの良さがあり、双方を併用しながら調べ学習をすることで、学びがさらに深まり、学習効果が上がることが期待される。より高い効果を得るためにも、図書資料とＩＣＴ機器を使用する際のそれぞれの利点を、授業者も児童生徒も理解する必要がある。今後、使用する目的を明確にしたうえで、授業内容によってうまく使い分けをしながら、より効果的な方法を探っていきたい。

また、今後ますますＩＣＴ機器の活用が広がることが予想されるが、「学習・情報センター」としての図書室の利用を大切に、図書資料のもつ魅力を学校中で再認識できるように、今後も研究を進めていきたい。さらに、学校図書館司書とも連携を図りながら、目の前の児童生徒の実態に応じた図書室やＩＣＴ機器の利用について考えていきたい。